

チャレンジ精神を育む脳科学

脳科学者 西 剛 志



私は普段、子育てがうまい人とそうでない人の違いを研究しています。全国の幼稚園や保護者向けにも講演も行い教育の現場によく入りますが、特に最近、先生からよく聞くのが『自信だけは高く新しいことにチャレンジしない子どもが増えて困っている』という声です。

そういった子どもは「私こんなこともできる!」「すごいでしょ!」と満面の笑みで自慢してきます。しかし、新しいことになると消極的。多くの先生や園長先生からも、どうしたらよいか相談を受けることもあります。

理由は多々考えられますが、最も大きな原因の1つは、意外にも「ほめるだけの教育」にあることが指摘されています。これを理解するために、スタンフォード大学をはじめとする「子育てスタイル」の研究からわかってきた親の4つのタイプを紹介します。おおよそ親は次の大きく4つのタイプがあります。

- <親の4つのタイプ>
- 支援型 (ほめる+しかる)
 - 迎合型 (ほめるだけ)
 - 厳格型 (しかるだけ)
 - 放任型 (関心をもたない)

2016年の日本人1万人を対象とした研究では、どんな親に育てられたかで子どもに影響があると報告されています。何でも挑戦しようとする「前向きな性格」は迎合型の親に育てられた子どもよりも「ほめる+しかる」支援型の親に育てられたほうが3~10倍以上高くなりました。

つまり、ほめる育て方だけではチャレンジ精神が育まれにくいことがわかってきたのです(もちろん統計学なので、例外もあります。)

また海外の研究でも、研究者は子どもに問題を解かせて、成績をほめたグループとほめないグループに分けました。すると、驚いたことに、ほめられた子どもは、その後、難しいことにチャレンジしようとしなくなりました。

子どもは「頭がいい」と能力をほめられると、「頭がいい=問題ができる」という状態を維持するために、確

実にできる簡単な問題ばかりに取り組むようになります。その結果、難しい問題にチャレンジしなくなってしまったのです(逆にほめないほうが、能力をほめるグループよりも難しい問題にチャレンジするようになりました)。

ただし、この実験ではほめ方を工夫したところ、圧倒的に難しい問題を選択するグループが発見されました。

それが『努力をほめられたグループ』だったのです。

この現象は動物も同じで、曲芸をするイルカにショーが終わったときに「あなたはすごい!」とエサを上げるよりも、イルカが大きくジャンプするたびに「すごいね!」とプロセスに反応してあげると、イルカはもっとジャンプしようとしています。

ほめられると、脳の報酬系(線条体)が活性化して、やる気の神経伝達物質であるドーパミンを分泌します。努力をほめられると、人や動物はもっと努力したくなってしまう生き物なのです。

「能力をほめるのではなく、努力をほめる」、「下手にほめるよりは、ほめないほうがよい」、このことを覚えておくと、子どもはどんどん難しい問題にチャレンジして、大人になってからも新しいことに挑戦して、あらゆる困難を乗り越えていく人になっていくでしょう。

環境変動やAIによる高度情報化などこれまでの常識が覆されていく時代では、チャレンジを恐れる「ニセの自己肯定感」ではなく、「本物の自己肯定感」が必要となってきます。そのためにも、私たち大人が、正しいほめ方を学び、共有していくことが大切です。

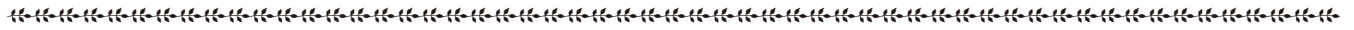


プロフィール

西剛志 (にし・たけゆき)

脳科学者/工学博士(分子生物学者)

東京工業大学大学院生命情報専攻卒。博士号を取得後、特許庁を経てうまくいく人とそうでない人の違いを研究する会社を設立。才能を引き出す方法などこれまで企業から教育機関まで3万人以上に講演会を提供。NHK スイッチインタビュー、ザ・世界仰天ニュース、カズレーザーに学ぶなどメディア出演多数。『脳科学的に正しい一流の子育て』など11冊の著書シリーズは海外も含めて累計37万部。



余白のある豊かさ

全日本私立幼稚園連合会
副会長 藤本 明弘

今期より副会長を拝命いたしました、京都の嵯峨幼稚園 藤本明弘と申します。甚だ力不足で微力ではありますが、全日私幼連の掲げる「私立幼稚園の振興を図り、幼児の幸福に寄与する」という目的のために全力を尽くす所存です。

さて、現代社会が不確実で不安定で不透明であることは決して否定できるものではありません。見通しが見えない暗闇に自分が置かれていると考えたり、感じたりしてしまつと、途端に誰もが不安になってしまいます。しかし、そもそも先のことが明確に分かっている時代など存在したのでしょうか？ 来年どころか、明日のことも分らないのが世の中というものではないのでしょうか。生成 AI の進化は目覚ましいものがありますが、それでも明日のことですら正確に予測することは不可能です。

そして今よりもはるかに様々な技術や工業製品が少なく、便利さや快適というものとはほとんど縁がなかった時代を生きていた先人たちも、私たちと同じような不安を抱えて暮らしていたのでしょうか。あるいは、不平や不満ばかりを言って生活していたのでしょうか。

もちろん、どの時代にも解決すべき課題は存在したでしょうし、誰もが満足していた時代など、どこにも存在しないのは言うまでもありません。しかし、私たちがどんな時に、何に対して「幸福」を感じるかという点がとても重要であると考えています。そして、物質的に豊かで快適に清潔に暮らせる現代社会の方が「幸福」で、インフラが整備されていなくて、科学技術が未発達時代に生きていた人々は「幸福」を感じられなかったのでしょうか。

決してそんなことはないはずで、文明社会とはほど遠い時代を生きていた人々も、間違いなく幸せな気持ちを抱いていたはずで、もちろん現代社会

とは異なることに「幸福」を感じるがあったことでしょうか。しかし、家族と仲良く過ごす楽しい時間や、自分が仲間からほめられたり、感謝されたりした時には時代に関係なく、人々は「幸福」を感じていたのではないのでしょうか。

そのように考えると、私たちは少子化や生産人口の確保や AI に代表される目覚ましい進化を遂げる科学技術の台頭により、ヒトとして本来大切にすべき事柄、言い換えるとヒトが普遍的に「幸福」を感じることができる家族を筆頭とする、身近な人たちとの良好な関係性をないがしろにしすぎているのではないのでしょうか。

システムや制度により子育てをする現代社会は、本当に豊かな社会なのでしょうか。本当に支援を必要としている人たちには、手厚いサポートをして支えていくことは勿論重要です。しかしながら、我が国の子育て支援の方向性は、本当に正しいのでしょうか。ヒトの「幸福」の基本である家族や、仲間と過ごす時間をもっともっと大切にする視点に立ち返るべきではないのでしょうか。

あらゆる物事がジャンルに関係なく、点数化され、ランキングされている現代社会には常に緊張感と不安がつきまといっている気がしてなりません。いろんな中身がぎっしりと詰まって隙間のない息が詰まりそうな世界よりも、自分で選んだ自由な方向に進むことのできる余白のある豊かさを、わたしたち幼稚園関係者は子どもの立場から、広く社会に向けて発信し続ける必要があると感じています。そしてそのことが、真の子どもの幸福につながり、こどもがまんなかの社会が実現する原動力であると信じて疑いません。

みなさまのご指導ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

● 10.24 団体長会

こども誰でも通園制度等を協議



10月24日(木)、オンラインにて団体長会・理事会合同会議が開催され、58人の出席により開催されました。はじめに、内野光裕副会長から開会の言葉がありました。

その後、議題に入り、議長に宮崎史郷総務委員長が選出され、議事録署名人に加納顕氏(岐阜)、千葉一道氏(静岡)が選出されました。

その後、尾上正史会長からあいさつがありました。

■協議案件 こども誰でも通園制度の件について

はじめに内野副会長から、「こども誰でも通園制度」について、こども家庭庁にて設置されている検討会での意見・協議など、現在に至るまでの経緯の報告ならびに10月30日に開催された検討会において提出した意見書の説明がありました。

その後、質疑応答に移り、活発な意見交換が行われました。

■報告案件

(1) 全日私幼連の法人化の件について

内野・総務担当副会長より令和8年度の一般社団法人化に向け、総務委員会内で協議された現在までの詳細な

状況報告がありました。

質疑応答に移り、今後も総務委員会内で継続して協議を重ねたうえで、常任理事会、理事会にて協議し、審議されるべき課題として意見交換がなされました。

(2) (一財)全日私幼研究機構とのパートナーシップ並びに共同宣言の件について

引き続き、内野・総務担当副会長より報告がありました。11月に行われる常任理事会ならびに12月に行われる団体長会議にて、今後も引き続き協議し、審議されるべき重要課題として、団体長の先生方と共有することとなりました。

■その他

子ども・子育て支援等分科会が10月30日にオンラインにて開催され、当日の会議の報告が石田明義政策委員長より行われました。

最後に、角谷正雄副会長から閉会の言葉が述べられ、散会となりました。

(総務委員長・宮崎史郷)

今後の主な会合予定

◎諸会議

【令和6年】

12月10日(火)

団体長会・理事会合同会議

東京・私学会館

【令和7年】

2月13日(木)

常任理事会

東京・私学会館

3月5日(水)

団体長会・理事会合同会議

東京・私学会館

4月23日(水)

常任理事会

東京・私学会館

5月8日(木)

団体長会・理事会合同会議

東京・私学会館

5月28日(水)

定時総会

東京・私学会館

※会合の日程は変更になる場合がございます。予めご了承くださいませようお願い申し上げます。

能登半島沖地震 ～現在の様子～

令和6年1月1日に発生した能登半島地震については、私幼時報4月号でも報告いたしましたが、約1年が経過した現在の様子を報告いたします。

まずは、全国より全日本私立幼稚園連合会を通じてご支援をいただいたことに感謝申し上げます。この地震により、石川県内の多くの施設に影響がありました。特に能登地区にある6園は、大きな被害を受け、園児・保護者・職員の心身にも大きな爪痕を残すこととなりました。幸いなことに、地震による怪我は在籍園児や保護者にはありませんでしたが、各施設の修理が必要となりました。また、一時的な停電や断水も経験し、支援物資や井戸水の利用など、それぞれに工夫を凝らし保育再開の努力をしてきました。さらに、被害のあった園は共通して、保育を再開する上で危険な家屋や未修繕の歩道が多く、散歩に出かけられる環境ではないことに苦悩していました。そんな折、9月21日に線状降水帯の影響により水害が発生し、特に輪島市の和光幼稚園に大きな影響が出ました。園舎内が80センチも浸水し、設備・備品ともに大きな被害を受けました。教職員やボランティアの協力により、子どもの安全を確保し適切な対応を実施しましたが、甚大な被害

により地震・水害以前と同じ保育をすぐに行うことは大変難しい事態となりました。この1年間を振り返り、施設側としては地震や水害に対する耐久性や緊急時対応力を再評価し、安全性を最優先に、想定する被害をアップデートする必要性を感じました。

なお、今回、輪島市・和光幼稚園にご協力いただき、現在も続く被害の状況を撮影してまいりました。(石川県かほく市・認定こども園木津幼稚園／星名裕)

1月1日午後4時10分。あの日、あの時の能登半島地震。七尾市を震度6強の地震が、羽咋市を震度6弱の地震が襲いました。地震からしばらくして、大津波警報が発表され、地震直後に多くの人が避難場所に集まりました。

七尾幼稚園は、七尾市旧市街の御祓(みそぎ)地区にあります。その地域の人々の津波避難場所は、幼稚園に隣接する小高い小丸山城址公園です。寒さ



すでに報告が上がっている園舎被害は職員が応急処置で対応している。隣家が倒れてきて壊れてしまった排煙窓は閉まらないので突っ張り棒でおさえている。



右隣の窓はまったく閉まらなくなってしまったため、外からベニヤ板などで閉じている。壁にも大きな亀裂が見える。



9月21日の水害で泥水が80センチも入り込んでしまった1階の部屋。

の中で、ベンチもない公園です。指定避難所の公民館などの鍵が開けられると同時に、隣接する七尾幼稚園にも臨時の避難所の要請があり、お受けすることになりました。1月1日の夕方5時頃から、わずか8日間でしたが、たくさんのドラマがありました。

七尾市の旧市街の被害は大きく、ほとんどの家が全壊か半壊。一部損壊の家は少なく、耐震構造の七尾幼稚園もひび割れがあちこちに見られます。それですら、周辺の住宅と比較すれば被害は軽微です。幼稚園周辺の人口は一気に減りました。七尾市全体の人口流失も止まらず、若い人が

らいなくなっていくます。急激な園児減が悩みです。

七尾市より南の羽咋（はくい）市の被害は、七尾市以北と比較するとそれほどでもありませんでした。しかし、活断層の亀裂のような地震被害の通り道があり、その中に羽咋白百合幼稚園と公立の余喜（よき）保育所が入ってしまいました。余喜保育所は園舎の復旧ができないと判断され、廃園が決まりました。対して、羽咋白百合幼稚園は、園舎本体の基礎が大丈夫だったため、保育室の床の地盤沈下によるへこみを直し、6月より改修した園舎で保育が再開されています。ただ、増

「子ども主体の保育」が「わかる」から「できる」へ

みんなでつくる園の未来！

保育ナビ

こども・子育て政策が大きく動く今、持続可能な園づくりの役に立つ、「国の動き」「人材育成」「園経営」「保育内容」「子どもの姿ベースの指導計画」「ミドルリーダーの仕事」など必須の情報をお届けします。

≡ B5判 64ページ 定価 1,200円（本体 1,091円+税 10%） ≡

子ども主体の保育に
役立つ実践や
ヒントを紹介！

職員の育成・
離職防止に役立つ
情報を紹介！

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <https://www.froebel-kan.co.jp>
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 保育事業部 営業推進チームまで

キンダーブックの **フーベル館**



大きくひしゃげてしまった窓枠。



崩れてぐねぐねと波打っているかのような瓦屋根と、解体するショベルカー。



コンクリートがゆがみ、段差ができてしまったところに目印としてテープが張られている。



大きく傾いてしまった家屋。

クラスや園のみんなで楽しめる
アプリがチャイルドブックから登場!

App Store からダウンロード Google Play で手に入れよう
 ダウンロード無料

お誕生日会に 生活指導に 絵本の読み聞かせに

いっしょによむぞう

いっしょによむぞう サブスクリプション料金

特別価格	1 アカウント/月額プラン	5,500 円(税込)
	1 アカウント/年額プラン	55,000 円(税込)

※チャイルドブック担当営業員を介してご購入いただいた場合の価格です。

初回会員登録限定 **30日間無料体験実施中!** 対応OS iPad OS 14 以降 Android 5.0 以降

会員登録した日から 30 日間無料ですべての機能をご利用いただけます。ぜひ、この機会にお持ちの端末でお試ください。

iPad は こちらから Android は こちらから

てあらい

さあ、いっしょに手のひらのばい菌をやっつけよう!

しょうずにできるかな?

このポーズは...クリア!

ポチャ!

やったね! 次は、かめのポーズだよ

画面の動きをまねしながら楽しく手洗い!

やられた

TEL 112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21
 TEL 営業 03-3813-2141 編集 03-3813-3785

チャイルド本社

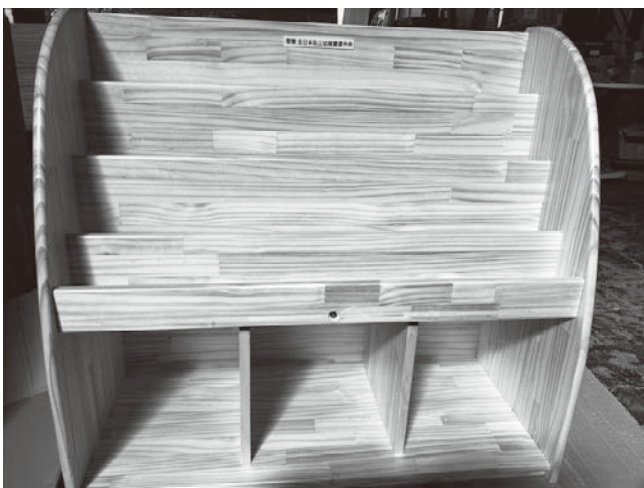
築部は杭基礎ではなくベタ基礎だったため、建物自体が傾き、解体・建て直しとなりました。工事はまだ始まっておらず、順番待ちとなっています。

全国の加盟園の皆様の温かいご支援に、心より感謝申し上げます。お心を、石川県私立幼稚園協会を經由して、受け取っています。能登の6つの幼稚園は、孤独ではないと感じています。ありがとうございます。ただ、時間を経るに従って、能登半島地震が忘れられて行くのを感じています。どうかお忘れにならないよう、お願いいたします。

(石川県七尾市・(学)七尾学院七尾幼稚園、羽咋市・(学)羽咋白百合学院羽咋白百合幼稚園理事長・園長/釜土達雄)

【『こどもがまんなか PROJECT』の一環として、能登の6園に本棚と絵本を寄贈いたしました】

今回の地震・水害を特に酷く受けた能登の6園に対し、こどもがまんなかPROJECTの一環として、本棚と(一財)全日私幼研究機構で選定している絵本大賞を受賞した作品を中心に50冊の絵本を、それぞれの園へ寄贈いたしました。



遊具：HOUSE

未来は、あそびの中に。

偉大なる発明も、世界を変えた公式も、
あそびから生まれた。

あそびは、すべての創造の源です。

あそび力を伸ばすことは、未来を切り拓くこと。
創造力をのばす。共感力をはぐくむ。ルールをまなぶ。
あそびから、こどもは無限の力を羽ばたかせていく。

あそびの環境に、あざやかな驚きを。

私たちは、未来をつくる仕事です。



JAKUETS

令和6年度 地区教研大会概要

東海北陸地区 教育研究大会

石川県・金沢市／8月1日・2日

大会テーマ

「一人ひとりの『こどもがまんなか』をまもる質の高い幼児教育を」

～社会全体でつむぎ未来へつなぐために～

令和6年度東海北陸地区教育研究石川大会が8月1日（木）、2日（金）に金沢市の石川県立音楽堂を主会場として開催され、東海北陸地区8県から幼稚園、認定こども園の先生方約1,100名の参加がありました。

全体会（1日目）

ウエルカムステージでは、金沢商業高校チアリーディング部のダイナミックな演技が披露されました。その後、パイプオルガン奏者によるオープニング演奏で開会に花を添えました。

開会式では、徳本達之地区会長や尾上正史全日私幼連会長にご挨拶をいただき、続いて功労者表彰、永年勤続表彰を行いました。

基調講演は、（一財）全日私幼研究機構の安家周一理事長に「公教育としての評価に資する教育施設を目指して」というテーマで、研究機構のこれまでの歩みや、今後の役割などお話しいただきました。また、予測困難なこれからの時代における乳幼児期の育ちの重要性と、デジタル社会の現代こそ原体験が必要であると語って頂きました。

記念座談会では、パネラーに基調講演に引き続き安家周一理事長と、田中雅道全日私幼連顧問並びに、加藤篤彦（一財）全日私幼研究機構専務理事をお迎えし、「“こどもがまんなか”を実現するために必要な教師の資質とは？」をテーマに対談して頂きました。

全日私幼連が進めてきた“こどもがまんなかプロジェクト”の発足した経緯や目的、プロジェクトの今後の方向性などをお話しいただきました。また、認定こども園への移行が進む中で0歳児からの教育の在り方や、小学校への接続のために幼稚園やこども園の立場で何が出来るのか、どのように伝えていくかなど、こどもがまんなかを実現するためにさまざまな視点から議論していただきました。

また、全体会会場の県立音楽堂2階ホール前には、県内各園の保育や研修等の様々な取り組みを「見える化」したポスター発表コーナーを設け、石川県の先生と県外の先生方との交流や意見交換の場となりました。

分科会

2日目に行われた分科会では、金沢市内5会場で10分科会に分かれて行われました。第9分科会では「ECEQ[®]を活用し、公開園の良さと課題を明らかにしよう」をテーマに金沢幼稚園での公開保育が行われ、参加者から積極的な意見交換が行われました。また、第10分科会においては設置者や園長先生を対象に、今後の園運営の諸課題について議論されました。

PTA大会

講演では、お茶の水女子大学の菊地知子先生をお招きして「子どもとの今を、明るく豊かに生きる」をテーマに講演して頂きました。歌手の今村ゆうこ氏や地元のかなよしバンド「with」の歌や演奏をミックスさせた構成で、参加された親子が終始楽しく参加することが出来ました。

終わりに

教育研究大会に向けて準備を進める中、1月1日の能登半島地震が発生し、能登地区を中心に甚大な被害が出ました。そのような中で、教育研究大会が無事に開催出来たのは、県内私立幼稚園の教職員の先生方のご理解とご協力があったからにほかなりません。また、全国各地より多くの励ましのお言葉や多大なるご支援をいただき、大変勇気づけられました。あらためて御礼申し上げます。

（（一社）石川県私立幼稚園協会総務委員長、かほく市・認定こども園うのけ幼稚園／細井将守）

大会テーマ

「一人ひとりの『こどもがまんなか』をまもる質の高い幼児教育を」

～社会全体でつむぎ未来へつなぐために～

去る8月8日・9日、9年ぶりに関東地区・神奈川地区教員研修大会が栃木県にて開催され、無事に終了いたしました。これもひとえに、関東地区会の角谷会長をはじめ、各県代表の皆様、そして担当役員の皆様のお陰であり、深く感謝申し上げます。

通常、輪番制では8年に一度の開催が予定されていますが、東京オリンピックや新型コロナウイルスの影響により今回のスケジュールとなりました。その結果、新設されたJR宇都宮駅直結のコンベンション施設「ライトキューブ宇都宮」を使用し、1,440名を超える皆様をお迎えすることができました。開会式では、全日本私立幼稚園連合会の尾上会長、(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の安家理事長からご挨拶を頂き、また、本県船田理事長の歓迎挨拶も記憶に残る名場面となりました。

講演会では、栃木県ご出身の玉川大学教育学部教授・大豆生田啓友先生をお招きし、「子ども・保育者がワクワクする保育」をテーマにご講演いただきました。先生は、現在の幼児教育・保育業界における課題と、それをチャンスに転換する方法について、具体的な事例を交えながらわかりやすくお話くださいました。ウェルビーイングを基軸に、大人と子どもが共に「共主体」の考え方でワクワクを生み出すというメッセージに、会場全体が引き込まれました。

また、栃木県独自のアトラクションとして、お笑いコンビ「U字工事」のライブも開催されました。北関東のネタはもちろん、各県のご当地ネタも披露され、「ごめんねごめんね～」のフレーズが会場を大いに盛り上げました。元気をもらえる時間となり、講演会と合わせて充実した内容でした。

大会2日目には、関東8県が担当する8つの基本フォーラムと、栃木県が担当する6つのフォーラムに分かれて行われました。各フォーラムでは、コーディネーターの指導の下、ゲストの助言や参加者同士のディスカッション、グループワークが行わ

れ、実り多い学びの機会となりました。また、栃木県ならではの教養文化講座として、世界遺産の日光や陶芸の町・益子を訪れ、合計16フォーラムに参加していただいた皆様に有意義な時間を過ごしてただけました。

参加者から頂いたアンケートには、「楽しかった」というコメントが多く寄せられ、楽しく学ぶことができたという点で非常に満足いただけたことに喜びを感じるとともに、安心いたしました。

今回の大会開催に向けては、1年以上前から栃木県幼稚園連合会の執行部、常任理事、各委員会、そして事務局が協力し、アイデアを出し合いながら準備を進めてきました。栃木県の良さを存分にアピールし、何よりおもてなしの心を大切にしたい大会になったと自負しております。また、当連合会船田理事長が掲げた「緊張」と「緩和」のバランスが取れた大会となり、成功裡に終わったことを嬉しく思います。

最後に、関東地区教員研修栃木大会へご参加いただいた先生方、フォーラム関係者、運営委員の皆様、そして各県事務局の皆様にご心から感謝申し上げます。国の制度が変わろうとも、自園の施設類型が変わろうとも、各県の私立幼稚園団体が担うべき役割の重要な1つが、幼児教育の質の向上を目指し、すべての子どもの最善の利益のために邁進することです。大会は終了しましたが、大会役員、県教育研究委員としての決意を新たに、当団体で一致団結して継続していく所存です。関東地区・神奈川地区の先生方ともそれができると信じております。この絆のバトンを次年度の茨城大会に託したいと思います。

ありがとうございました。

((一社)栃木県幼稚園連合会教育研究委員長、下野市・吉田保育園／小倉庸寛)

大会テーマ

「一人ひとりの『こどもがまんなか』をまもる質の高い幼児教育を」

～社会全体でつむぎ未来へつなぐために～

令和6年8月6日・7日、第38回四国地区教育研究大会徳島大会が、四国4県から450名の参加者をお迎えして徳島市の徳島グランヴィリオホテルを会場に開催されました。四国地区では昨年度に引き続き対面開催が可能となり、衛生面に気を配りながらも通常に戻ってきた様子に、コロナ禍でも学びの機会を絶やさず行ってくださった四国各県の実行委員の方々のご苦勞を改めて感じ、心より感謝を覚えました。

開会式では、徳島県知事・徳島市長が共にご出席くださり、祝辞をいただきました。

開会式に引き続き記念講演が行なわれ、武蔵野大学教育学部幼児教育学科教授の箕輪潤子先生に「子どもの遊びを見るまなざし・環境構成・援助～砂場での遊びから考える～」と題してご講演をいただきました。

保育環境として欠かせない砂場での遊びをとおり、子どもが感じる楽しさを保育者が見守り、必要な時に必要な環境を構成していくことの奥深さを学びました。

また、箕輪先生の提案により、普段接することが少ない他県の先生方と座り、前もって用意をした自園の砂場の写真を使って、遊びや環境構成などを紹介合うグループ討議の時間があり、一方向で講演を聴くだけでなく、参加者が積極的に意見を交換しあって、より砂場の環境や遊びを生み出す楽しさ・面白さを共有する時間を持つことが出来ました。

記念講演後、以下の6つの分科会に分かれて、各分科会2園ずつの提案発表がなされました。第1分科会は「愛されて育つ子ども」、第2分科会は「子どもと共に育つ保育者」、第3分科会は「教育・保育理論」、第4分科会は「子ども理解」、第5分科会は「保育実践」、第6分科会は「子どもが育つ家

庭や地域」です。

また、2日目には質疑応答や協議の柱で示された内容を、グループ討議で盛んに話し合う様子が見られました。そこでも、「オンラインではなく対面で話ができるこの空気感がよかった」というご意見が多くありました。

設置者・園長部会では「社会の資本として、そして私立学校としていかに光り輝くのか」と題して、一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長の安家周一先生から、予測困難な時代に向かう今、乳幼児教育の重要性を園長が一番勉強するべきだと話され、次々と変化する新しい制度などしっかり学ぶことを示されました。また、四国4県の団体長から各県の私立園の状況報告もあり、少子化の問題や地域格差等厳しい状況のなかで、私立園として「WANTS」と「NEEDS」を整理しつつ、しっかり運営していくよう力づけられた内容でした。

今回、昨年度末に「幼稚園ナビ」が「ゆたかなまナビ」へと移行されてから初めての教育研究大会でしたが、参加者皆様のご協力により、移行後の手続きもスムーズに行われ、昨年度の香川大会で好評だった、QRコードを各自で読み取る受付方法も引き続き行うことができました。

最後に、徳島県は全体で11園という非常に小さな規模での運営のなか、不十分な場面もあったことと思われませんが、ご参加全ての方々の温かいご理解とご協力により、無事に終えることができました。紙面をお借りしまして、心より感謝申し上げます。
(徳島県私立幼稚園・認定こども園協会副会長、吉野川市・認定こども園めぐみ幼稚園めぐみ保育園／山賀杏子)

大会テーマ 「輝け未来！ 耕せ今 —これからの時代に求められる非認知能力—」

猛暑日 25 日連続最長記録。最高気温は体温ほどとなった今年の暑い夏。大会前日、天候や講師の先生方にアクシデントがなく、予定通り開催できることに安堵し、当日の朝を迎えました。

1 年半前から実行委員会を立ち上げ、大会テーマ、講演や分科会でのワークショップの内容、講師の選出にあたり、骨組みとなるものは何であろうと話し合いを進めていきました。子どもたちの輝かしい未来へ私たちができることは何か、予測できない時代となる社会で生きていく子どもたちが対応する力として必要なことは何か、を探るとそれは非認知能力でした。我々がそれらを理解し、子どもたちが日々の遊びの中で培っていく、まんなかとなるテーマがはっきりすると、あとは速やかに進んでいきました。計画した講師の先生方にも快諾いただき、これは充実した研修会になるぞと、心の中でガッツポーズをしていました。

●全体会（1 日目）

開会行事では、全日本私立幼稚園連合会会長尾上正史先生のご挨拶をはじめ、ご来賓の方々からご祝辞を頂戴し、永年勤続者表彰の後、代表者謝辞を倉敷マリア・インマクラダ幼稚園／畑元かおり園長（岡山県）がいたしました。引き続き行われた、夕べのつどいで尾上会長のご挨拶の中で、永年勤続表彰者の謝辞に大変感動されたとお話があり、我が仲間を誇りに想う場面がありました。

* 基調講演

IPU・環太平洋大学教授／お茶の水女子大学名誉教授内田伸子先生による演題「AI に負けない力を育む子ども中心の保育」では、幼児期の遊びが非認知能力を培う大切な経験であること、AI 時代の今だからこそ外遊びが推奨されていること、主体的に活動するために子どもたちに考える余地を与えること、計画ばかりにとらわれず柔軟に対応していくことなど、正に明日からの保育に取り入れられるお話でした。

* 記念講演

岡山県美作市生まれの作家あさのあつこ先生による演題「子どもの笑顔を願って」では、あさの先生のお話しに続き、岡山県内幼稚園こども園に勤務する保育教諭 5 人が一緒に登壇し、対談をしました。一冊の本ができるまでにかかる時間や作業方法、言葉選びや題材となるもの、どんな心境で書いていくのかなど質問をしながら、あさの先生の考えるその先にみえてくる

伝えたいことや子どもの笑顔につながる想いをお聴きすることができました。記念講演が決まってから私自身、あさの先生の著書「バッテリー」を全巻読んで、主人公巧の大ファンになりました。あさの先生は「登場する人物が、何が好きでどんな考えを持っているかが知りたくて書き進めている」とおっしゃった言葉がとても印象に残りました。また、今回の実施要項表紙にはあさの先生の絵本を読む子どもたちの家族を掲載いたしました。

●分科会（2 日目）

- * 第 1 分科会「ネイチャーゲームで感性を拓こう」
勝間光洋先生（岡山県シェアリングネイチャー協会
ネイチャーゲームインストラクター）
- * 第 2 分科会 造形遊び「素材と かるやかに あそびとける」
金山和彦先生（東京家政大学教授）
- * 第 3 分科会「幼児教育における音楽が育む非認知能力」
日畑由佳先生（10 歳からのリトミック&モンテッソーリ教育『オトノハ』主宰 NPO 法人リトミック研究センター岡山第 1 支局指導者養成スタッフ）
- * 第 4 分科会「保育者自身の心のケア～これからの保育現場に必要なこと」
小川智子先生（iro-pro 代表）
- * 第 5 分科会「絵本の読みあいから紡ぎだされるゆたかなコミュニケーション」
村中李衣先生（山口学芸大学客員教授、児童文学作家）
- * 第 6 分科会「ミドルリーダーに必要なリーダーシップとは」 ミドルリーダー研修
佐藤和順先生（仏教大学教授、岡山県立大学名誉教授）
- * 第 7 分科会「事故対応強化のすすめ」 設置者園長 NL 分科会
脇貴志先生（株式会社アイギス 代表取締役）
それぞれの専門性に触れ、先生方の学びにつながった研修大会となりました。県内では役割分担をし連携を取り、県事務局さんが細やかな準備を進め、何より 450 名という多くの先生方が学びの時間を共にできましたことに感謝申し上げます。
(岡山県私立幼稚園連盟副理事長、教育研究部長、倉敷市・敬愛幼稚園、第二敬愛幼稚園園長／永宗智子)

子ども・子育て支援新制度のおさらい

認定こども園委員会
委員 吉田耕一郎

リレー形式で掲載しております認定こども園通信②では、子ども・子育て支援新制度の概要をお伝えします。

ルーツは1.57ショック

1989年の合計特殊出生率が、1966年（丙午）の1.58よりも低くなり、戦後最低となりました。国は初めて少子化社会への対応を重大な政策課題と位置付けました。1995年少子化対策として「エンゼルプラン」を創設し、プランを実施するための「緊急保育対策等5か年事業」が策定されたのが始まりとなるのです。

保育サービスの充実と仕事と家庭の両立支援から子ども子育て支援へ

その後次々と少子化対策として保育サービスの充実と仕事と家庭の両立支援の施策が打ち出されてきましたが、少子化は進展する一方で、長引く不況が共働き世帯の上昇を生むこととなり、深刻な待機児童の増加も生むこととなりました。一向に改善されない少子化への対応として、これまでの「少子化対策」から「子ども・子育て支援」へと改善され（子ども・子育てビジョン）、子どもの育ち・子育て家庭を社会全体で支えることや幼保一体化を含め、制度・財政・給付について、包括的・一体的な制度構築を目指すこととなりました。

子ども・子育て新システム、子ども・子育て関連3法

「すべての子どもへの良質な生育環境を保障し、子ども・子育て家庭を社会全体で支援」「新たな一元的システムの構築」を目指すために、法整備も行われました。いわゆる「子ども・子育て関連3法」が制定され、この時初めて、総合こども園の創設が打ち出されました。

子ども・子育て支援新制度

政権が自公に戻り、子ども・子育てに関する施策

が、急速に進展されることとなりました。名称も「子ども・子育て支援新制度」となり、幼保連携型認定こども園等への積極的な移行がインセンティブを設けて進められることとなります。新制度は平成27年4月から本格施行されました。財源は消費税等の引き上げにより賄うこととなり、恒久的財源を模索しながら、「保育緊急確保事業」が実施されました。

新制度のポイントは、①幼稚園、認定こども園、保育所を通じた共通の給付（施設型給付）の創設。②認定こども園制度の改善（認可・指導監督の一本化、学校及び児童福祉施設としての法的な位置づけなど）③地域の実情に応じた子ども・子育て支援の充実④子ども・子育て会議の設置などが明記されました。

子ども・子育て支援新制度の10年ぶりの見直し

見直しに関しては未だ詳細は分かりませんが、物価高に連動した給付水準の改定、地域区分の見直しなどが期待されています。10年前は、おおよそ100名以下の幼稚園にとっては新制度園へ移行することにより安定経営が出来ましたが、近年厳しい経営環境にありますので、公定価格の見直し等を国に訴えることが必要な時期といえるでしょう。

今回は「公定価格の仕組み・解説」について、安本照正副委員長が執筆します。お楽しみに。



令和6年度 秋の叙勲者

【幼稚園・認定こども園関係】

褒章・勲章受章おめでとうございます。

■褒章受章者

藍綬褒章

山形県	学校法人齋藤学園理事長	齋藤 哲
京都府	学校法人朱雀学園理事長	末廣 敬邦

■勲章受章者

旭日中綬章

佐賀県	学校法人永原学園理事長	福元 裕二
-----	-------------	-------

瑞宝双光章

静岡県	(元)象山幼稚園園長	秋山 斌
福岡県	きらきら星幼稚園園長	黒田 秀樹
神奈川県	綾西幼稚園園長	古郡 孔文
宮城県	(元)南光シオン幼稚園園長	村山 十五
鳥取県	幼保連携型認定こども園あけぼの幼稚園園長	波多野和雄

瑞宝単光章

愛知県	白竜幼稚園園長	中村 礼子
岡山県	(元)つしま幼稚園園長	光岡美恵子
長野県	和光幼稚園園長	宮川 義典

※敬称略。主要経歴は受章名簿を参照しております。

『知っていますか？生活の中の子どもの権利』改訂版

引続きお申込み頂けます！

私幼時報9月号でお知らせいたしました、「知っていますか？生活の中の子どもの権利」改訂版小冊子につきまして、加盟園の皆さまから多くのお申込みを頂きました。誠にありがとうございました。

当初の想定を超えてご注文を頂きましたおかげで、この度、冊子を増刷するはこびとなりました。

QRコード、もしくはURLより申し込み用紙(Excel)をご確認いただき、記載のメールアドレスへお申込みください。

注文に行き違いが無いよう、必ずメールでのお申込みをお願いいたします。

< URL > <https://zennichishiyouren.com/data/file.xlsx>

【QRコード】



令和6年度「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」実施要綱

1. 名 称

オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン

2. 趣 旨

児童相談所の児童虐待相談対応件数は依然として増加傾向にあり、こどもの生命が奪われる重大な事件も後を絶たない。児童虐待の防止は社会全体で取り組むべき重要課題である。

こども家庭庁では、毎年11月を「秋のこどもまんなか月間」と定め、こども・子育てにやさしい社会づくりのための各種取組を行うが、その一つとして「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」を実施し、家庭や学校、地域等の社会全般にわたり、児童虐待問題に対する深い関心と理解を得ることができるよう、関係機関・団体等の協力を得て、期間中に児童虐待防止のための広報・啓発活動など種々な取組を集中的に実施するものである。

3. 基本方針

- (1) 児童虐待問題への国民の理解の浸透及び児童虐待防止に向けた国民的意識の高揚・定着
- (2) 地域社会に根ざした児童虐待防止に向けた取組の促進
- (3) 児童虐待防止に向けた取組における関係団体、関係機関、地域住民等の連携強化

4. 標 語

『 189 (いちはやく) 気づいてあげて そのサイン 』

福元 悠真さん（沖縄県）の作品

※ 全国公募により選定

5. 期 間

令和6年11月1日（金）から30日（土）まで

※ 実情に応じ、期間延長等の変更可。

6. 主 唱 者

こども家庭庁

園と園で学び合う 「保育公開研修」

島根県私立幼稚園連合会には、現在9園が所属しています。少ない園数であるからこそ、先達者の御苦勞もあり、互いに身近に感じられる纏まりのよい関係を当世まで築けてきたのであろうと思います。

園と園との関わりが良好であることが保育者同士が豊かになることに繋がり、ひいては子ども一人ひとりの健やかな育ちへと広がっていくものと信じています。

今年度より、コロナ禍で中断していた県内私立幼稚園の全職員を対象にした「保育公開研修」が再開しました。この取り組みは、保育者自らが他園に出かけ、他園での保育を1～2日体験し、ともに学び合い自園の保育に生かしていくことを目的としています。

毎年、県内の研修会場で研鑽をともにする保育者同士が、場を保育現場に移し、迎える立場・出かける立場で再会します。その園の環境の中で、その園の子どもたち・先生とともに過ごすひとは、互いに新たな気づきや発見をもたらしてくれます。

どの園においても、子ども中心の保育を心がけ、「活動や遊びの主人公は子ども自身」という思いで日々関わっているはずで、子どもが主人公ということは子どもが「まんなか」であり、保育者は傍らで見守り、まんなかを包み込むような、子ども一人ひとりを信じ続ける温かく柔らかな眼差しが大切です。表面的な言葉のやりとりだけでなく、目の前の子ども一人ひとりの心の声に気づき丁寧に聴ける保育者でありたいと願います。

常に心身ともにダイナミックに動いている保育現場において、これからも県内の園・保育者同士が互いに切磋琢磨していける関係でありたいと思っています。

(島根県私立幼稚園連合会、益田市・益田幼稚園
／永見宏樹)

集うことの良さを 実感しよう！

(一社)大阪府私立幼稚園連盟では、毎年3月下旬に大阪府内の私立幼稚園の教職員数百名が対面で参加する教育研究大会を開催してきました。しかし新型コロナの影響で対面開催が困難になり、昨年度まではオンライン方式に切り替えて開催してきましたが、今年度(令和7年3月)は6年ぶりに対面開催をしよう!ということで教育研究委員会を中心に現在準備を進めています。内容についても、コロナ禍前の対面形式では記念講演・分科会の開催、オンラインではテーマ毎の配信を視聴する、といういわば一方通行の研修が多かったのですが、今回は従来の講演に加えて、「集う」ことの良さを実感できるように、受講者参加型の内容を増やす予定です。

具体的には昨年度に当連盟で開催した「保育イドバタ会議(ポスター発表)」を拡大版にして開催します。ねらいはあくまで「保育について語り合うこと」です。園での取り組みを聞いてもらったり、頑張りや悩みを共感してもらったり、アドバイスをもらったり…、話題提供者・参加者双方にとって自園の保育の活力に繋がる場になればと考えています。また、ポスター発表とは別に「語り合いテーマ」を募集して、参加者が車座になって情報交換する場を提供したいと考えています(公開保育の分科会のイメージ)。さらに当連盟を支えて頂いている協賛企業の皆さまにもブース出展をして頂く予定です。

語り合うもよし!学び合うもよし!日々の頑張り共感しあうもよし!大会に関わる全ての皆さま・園にとって有意義な一日になればと願っています!

((一社)大阪府私立幼稚園連盟、大東市・認定こども園、朋来幼稚園／藤井宣昭)

編集後記

師走になり、先生方はクリスマス会や表現会など楽しい催しを準備するために奔走しています。子どもたちの元気で嬉しそうな声を聞いていると、大人も元気づけられ、癒されます。年の瀬となると月日の流れが早く感じられ、ちょうど元旦の能登半島地震から1年が経とうとしています。元気な子どもたちに負けず、大人も復旧復興に元気に努めていきたいものです。

風邪を引いて鼻水が出たりすると、「体調不良

のない健康な体って素晴らしい」と感じるように、災害を目の当たりにすると平穏な日常の有難さを痛感します。文字通り「有り難し」。なんでもない日常は、先人が大変な努力をして作ってきたものです。蛇口から水が出る。トイレが流れる。ご飯が食べられる。子どもたちが笑顔でいる。そんな日常を送れることに感謝をし、また日常を取り戻すことに奮闘している方々にエールを送ります。

(広報委員・星名裕)

ホーネット 車内置き去り防止システム

カーセキュリティ機能付き車内置き去り防止システム

- エンジン停止後にブザーが鳴ります。
- 見回りながら後部に設置したリモコンボタンを押してブザーを止めます。

車内センサーが人の動きや振動を検知してアラームでお知らせ！



標準セット

超音波センサー

2段階衝撃センサー

車両の位置情報や移動履歴などスマホやPCで管理できます。



緊急通報



アナログによる
ヒューマンエラー
防止

デジタルによる見守り



株式会社 **チャイルド社** コンピュータ部

〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-39-11
ホームページ: <https://www.child.co.jp/>

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とカリキュラム

毎月2日 発売



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表